

保護者様



ふれあい通信



特別支援教育だより N o 2

平成 23 年 6 月 10 日

栃木市立三鷹小学校

「特別」でない「特別支援」・・・

学校は子どもたちにとって、生活の場であり、とても大きな日常です。学校に来ることが楽しい、または、当たり前になることが第一の目標です。学校ではいろいろな教育活動の目標として

認め合い・学び合い・励まし合う人間関係を作ること
個性を大事にすること
わかりやすい授業をすること
学習に意欲が持てるようにすること
思いやりの心で人と接すること
主体的・自主的に活動しようすること



等々があげられています。

特別支援教育に関係の深いことばかりです。どれをとっても『特別』なことではありませんね。だから、昔から特別支援教育は「教育の原点」といわれているのです。

わかりやすい環境を整えて

わかりやすい環境を整えて、子どもの特徴に合わせた接し方をすることで、出来ることが多くなり、より自分に自信が持てるようになります。たとえば…

具体的な言葉で
簡潔に説明しましょう → 「それ、片付けて」ではなく「本は本棚に入れてね」等
何をどこにしまうか伝えましょう。

正しい方法やルールを
教えましょう → 「そんなことしちゃだめでしょう」ではなく「『貸して
ね』っていうんだよ」等
どうすれば良かったか教えましょう。

絵や写真カードを使って
説明しましょう → 言葉だけでははっきりしないものも、写真を見れば一
目瞭然。

量より質を
重視しましょう → 気分の乗らない漢字練習。だらだらと 10 回書くより
正しく 3 回書く方が効果的なこともあります。
マス目の大きなノートを使うと書く回数が減りますね

予定を知らせましょう → 見通しが持てると行動の切り替えがしやすくなります。

ほんのちょっと言い方を変えたり見やすくすることで、わかりやすさは大きく変わ
つくるようです。わかりやすい、よりよい環境を作り上げていきたいものです。

ふれあい通信 2 号を読んでいただきありがとうございました。1 号への暖かいメッセージを頂いて保護者の方との距離が少し近くなったように感じました。これからも保護者の方と一緒に子どもたちを見守ってゆけるような内容をお伝えしていきたいと思います。2 号へのご意見・メッセージお待ちしています。

きりとり

（メッセージ）

「ふれあい」 N o 2

保護者様



ふれあい通信



特別支援教育だより No 9

平成24年6月18日
栃木市立三鴨小学校

一人一人に寄り添って・・・

「一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育」という特別支援教育の考え方は、障害の有無にかかわらず、すべての児童の確かな学力の向上や豊かな心の育成につながります。三鴨小学校では6月11日(月)から7回の予定で教育相談が実施されています。児童一人一人と担任が一対一で話す機会を持つことで、より理解を深めていくために行っていきます。事前に簡単なアンケートを記入したり、「Q-Uテスト」を行ったり(2~6年生で実施)と、子ども達をいろいろな角度から見られるように工夫しています。

「Q-U」って?

- 学校生活における児童個々の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定するもの
- 15分程度の短時間で実施できる

「やる気のあるクラスを作るためのアンケート」

「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」

こんなことがわかります。

- ①児童個々の学級生活における満足感や、学校生活での意欲の状態
- ②学級集団の雰囲気や成熟状態を、児童の満足感や意欲の分布状況によって確認できる。
- ③学級や学校生活における満足感や意欲に関しての、児童の学級内での相対位置がわかる。

たとえば・・・

〈学級満足度尺度〉という尺度で見ると

侵害行為認知群	学級生活満足群
学級生活不満足群	非承認群
要支援群	

.	.
.	.



こんなふうに右上に集まるのが理想的といわれます

6月の結果では学校全体(2年生以上)で右上に位置した児童が67%でした。全国平均が41%、新学年になってまだ2ヶ月のこの時期としてはよい状態にあると言えます。

校内研修では、

もっと一人一人に声をかけていきたい。



係やグループ学習などで子供たちの関わりを深めたい



・・・などの声が聞かれました。

〈メッセージ〉

きりとり

「ふれあい」No 9